

## 組織目標評価報告書（令和2年度）

21

部局名:

惑星物質研究所

部局長名:

薛 献宇

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p>関連する 年度計画の番号 [30-1]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学院自然科学研究科地球惑星物質科学専攻(5年一貫制博士課程)において、国内外の優秀な学生の確保に努める。そのための広報活動を積極的に行う。</li> <li>在学生に対して、経済的なサポートや教育用図書整備・充実を行い、良好な学習・研究環境を提供する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防し、在学生の健康と生命を守りながら、安心して学習・研究を続けることができるように支援する。</li> <li>学生を視野の広い研究者に育成するための方策として、研究所として定期的に学生発表会を実施すると同時に、学生の学会発表を奨励するための旅費補助プログラムを実施する。</li> <li>英語による授業、演習、ゼミナールを実施する。</li> <li>学生相談員等による学生に対するサポートや、ハラスメント防止や、メンタルヘルス推進に関する取組みを積極的に行い、健全な教育研究環境を構築する。</li> </ul>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学院自然科学研究科地球惑星物質科学専攻(5年一貫制博士課程)において、コロナパンデミックの中で、海外から3名の留学生の入学を実現した。</li> <li>国の制度に先取り、5年一貫制博士課程学生全員に対して、RA及び奨学金の支給により研究に専念できる環境を提供している。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の予防策を徹底し、感染者を一人も出さずに、学習・研究を継続することができた。</li> <li>学生を視野の広い研究者に育成するための方策として、学生の学会発表を奨励するための旅費等補助プログラムを継続的に実施し、学生3名に日本地球惑星科学連合2020年年会での研究発表のための投稿料補助を支給した。</li> <li>全ての授業、演習、ゼミナールを英語で実施し、国際的な教育を実施した。</li> </ul>
<p><b>②研究領域</b></p> <p>関連する 年度計画の番号 [30-1]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球惑星物質の分析・実験の技術開発を行い、世界最高レベルの地球惑星物質科学研究を展開し、優れた研究成果を輩出する。</li> <li>JAXAが実施しているはやぶさ2サンプルリターンミッションによる小惑星リュウグウから持ち帰る試料の総合分析に向けて、準備を整える。また、NASAが実施している小惑星ベンヌの探査オシリスレックスミッションに参画し、優れた研究成果につなげる。</li> <li>科学研究費補助金の申請率・採択率を高めるために、本部と連携して、教員の個別指導や講習会等を実施する。</li> <li>共同利用・共同研究拠点として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で国内外の研究者の来所による受け入れが困難になっている状況を鑑みて、新たな形での共同利用研究の実施の方策を講じる。</li> <li>共同利用・共同研究拠点の期末評価および第4期の拠点認定更新に向けて、第4期以降の構想を具体化し、それに向けて着実に準備を進める。</li> </ul>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球惑星物質の分析・実験の不断な技術開発を行い、世界最高レベルの地球惑星物質科学研究を展開し、32編の査読論文を発表するなど、優れた研究成果を輩出した。その結果、本研究員1名が日本鉱物科学学会賞を受賞、1名がアメリカ鉱物学会フェローに選出された。</li> <li>JAXAが実施しているはやぶさ2サンプルリターンミッションによる小惑星リュウグウから持ち帰る試料の総合分析に向けて、準備を整えてきた。そのための重点的予算配分を行なった。</li> <li>科学研究費補助金の採択率を高めるために、希望者5名に対して、申請書の個別指導を実施した。また、若手教員を対象に、外部資金の獲得を促進するための補助プログラムを実施し、2名の助教に予算補助及び助言を提供した。</li> <li>共同利用・共同研究拠点として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けている研究者を積極的に支援するため、後期の公募は随時受け付けることとした。通常の来所による受け入れ(15件、うち国際2件)のほか、来所が困難な研究者のに対して、代行による共同研究(6件、うち国際3件)も実施した。また、今後多様な共同利用研究を可能にするため、装置の自動化・遠隔化を進めている。</li> <li>共同利用・共同研究拠点の期末評価および第4期の拠点認定更新に向けて、第4期以降の構想を具体化し、書類を文科省に提出した。</li> </ul>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p>関連する 年度計画の番号 [30-1]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県、三朝町との連携を積極的に推進し、地域社会へのアウトリーチに一段と積極的に取り組む。</li> <li>地域住民、国内外の高校生・大学生等向けの講演や施設見学受入を積極的に実施する。</li> <li>より多くの人々が地球惑星科学に親しめるように、昨年度設置した一般向けの展示室の充実に取り組む。</li> <li>国際共同教育研究拠点の推進の一環として、国際共同研究や連携等の実施により、国際貢献を積極的に推進する。</li> </ul>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県、三朝町との連携を深めるため、OMT協議会を開催し、今後の連携について協議した。</li> <li>より多くの人々が地球惑星科学に親しめるように、昨年度設置した一般向けの展示室の充実に取り組んだ。</li> <li>世界トップ研究機関である米国カーネギー研究機構・地球惑星研究所と部局間連携協定を更新した。また、新たにフランスのクレルモン・オーヴェルニュ大学との研究交流を促進するため、主幹部局として大学間協定の更新のほか、新たに研究とスタッフの交流に関する附属文書の締結(2021年4月予定)に努めた。</li> <li>岡山大学が内閣府に採択された「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の一環として、本研究員のCASTEM 24 Remoteが取り組みの一つとして選定され、分析機器の遠隔利用・産業利用を進めてきた。</li> </ul>
<p><b>④管理運営領域</b></p> <p>関連する 年度計画の番号 [30-1]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>構成員の意見を広く反映できる風通しの良い運営を心がける。</li> <li>外国人教員を積極的に採用し、外国人教員が運営に関わることができるよう、英語環境下での運営を実施する。</li> <li>若手教員が主体的に活躍できるように研究環境を整え、若手人材育成に貢献する。</li> <li>部局予算編成において、所長裁量経費を確保し、戦略的な予算執行を行う。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大を防止し、構成員の安全と生命を守るために、高い意識を持って、リスク管理を行う。</li> <li>衛生管理者や産業医による定期的な職場巡視、化学物質の適切な管理など、職場の安全衛生の推進および法令遵守の徹底を図る。</li> <li>研究所のホームページ及び展示室の充実、研究所ニュースレターの定期的な発行等、研究所運営・活動の「見える化」に努める。</li> </ul>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際公募により外国人教員・研究員(計3名、うち1名はコロナにより辞退)を積極的に採用し、外国人教員も運営に参画できるように、所内資料の英訳や、英語による会議の進行など、Diversity &amp; Inclusionを実践してきた。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止と研究・教育の両立に心がけてきた。その結果、感染者は一人も発生しなかった。</li> <li>衛生管理者や産業医による定期的な職場巡視、化学物質の適切な管理など、職場の安全衛生の推進および法令遵守の徹底を図った。</li> <li>研究所の展示室の内容の充実、研究所ニュースレターの定期的な発行等、研究所運営・活動の「見える化」に努めた。</li> </ul>